

The 21st Century Interview

石清水八幡宮 宮司

# 田中恆清

木津川、宇治川、桂川の三川が合流し淀川となる地点を挟んで、天王山と対峙する位置にある京・難波間の交通の要地、男山。その男山に貞観2年以來、御鎮座される石清水八幡宮の八幡大神は、都の守護神、国家安泰の神として朝廷はもとより国民に国家鎮護、厄除開運、必勝弓矢の神として篤い崇敬を受けてきた。

その石清水八幡宮の宮司として、そして「神社本庁」の総長として多忙な毎日を送っているのが、石清水八幡宮の創建を果たした平安時代初期の僧・行教律師を先祖に持つ田中恆清氏である。

長きにわたり、国内外の多くの要人と接してきた田中宮司が痛感しているのは、本来、日本人が持っていた精神の重要性。国難の今こそ、「日本の歴史に学び、先人たちの持つ強い精神を取り戻すべし」という田中宮司の言葉は、明るい未来構築の大きな一歩として強く心に響いてくる。

撮影◎杉田知佳子

# 今こそ日本の歴史を 学ぶとともに 強い精神の確立を

進歩する科学、発展する経済を背景に、失われたものも少なくない。  
そのもつとも大きなものは精神。  
日本人らしさを取り戻し、日本を繁栄に導くために、  
今改めて日本人の精神の原点を問う。

## 国難の時代に創建された 国家鎮護の神社

**伊藤** 小誌が創刊されて60年が経ちました。その間、非常に大きな科学の進歩、経済の発展がありました。一方で倫理観を欠いた出来事が多くなってきたように思います。今こそ精神のあり方が大事だと思っております。今日はその辺のお話をお伺いしたいと思います。

石清水八幡宮は、古くから皇室の方が大切にされてきた神社ですが、まず初めに石清水八幡宮のいわれや歴史についてお聞かせいただけますでしょうか。

**田中** 石清水八幡宮は貞観2年に創建され、今年で創建1153年を迎えました。時の天皇は第56代の清和天皇でしたが、天変地異が頻繁に起こった御代であったこともあり、清和天皇の御意向を受けた奈良の大安寺の僧侶で、空海の弟子であった紀行教が命を受け、神様の御意志をお伺いする

ため豊前の国・宇佐宮に参籠しました。その満願の日に神様が「吾れ都近き男山の峯に移座して国家を鎮護せん」という託宣を出されるわけです。八幡様というのは日本の神々の中で非常に特異な神様として、基本的に日本の神々は寡黙ですが八幡様に限っては非常に饒舌です。何か国家の一大事などといったことが起こると必ず自ら「託宣」という指示をされる神様なのです。それを受けて行教は宇佐からこちらに神様をお遷しました。それが鎮座の起源です。このように八幡宮創建の主旨



石清水八幡宮社殿



The 21st  
Century  
Interview

田中恆清 (たなかつねきよ)

昭和19年6月 京都府八幡市生まれ。  
累代祀官家58代宮司。  
代々石清水八幡宮宮司を務める田中家に生まれる。  
國學院大學神道学専攻科を修了、平安神宮奉仕を経て昭和47年に石清水八幡宮へ。同宮権禰宜、禰宜、権宮司を経て、平成13年7月、宮司に就任。

現在、全国約8万の神社を包括する神社本庁代表役員総長、その他、京都府神社庁長、(財)日本文化興隆財団理事長、(社)日本国際文化協会理事長、(公財)伝統文化活性化国民協会理事、(公財)日本宗教連盟理事、全国八幡宮連合総本部長、(社)全国国宝重要文化財所有者連盟理事、世界連邦日本宗教委員会会長、八幡市観光協会会長などを務める。  
趣味は、クラリネット演奏。



聞き手  
伊藤千恵 本誌社長

は国家を鎮護せん」、つまり国を守ることが第一の大きな使命です。

もう一つは、神仏習合という日本人が編み出した独特の信仰を代表する神様であり信仰であるということ。明治維新までは神仏習合の精神的な祈りがずっと続いてきました。創建時代は仏教的色彩の濃い信仰であり、その後は源氏が氏神と定めたことにより、武家の神として多くの崇敬を集めました。ところが明治維新の廃仏毀釈によって、この神社の最も根本にあったものを変えざるをえなくなりました。しかし、神社としてはそれ以後も皇室の守り神として、すなわち国家の守り神として多くの方々の信仰を得てきました。

**伊藤** 今も国家の危機なので、守っていただかなければいけませんね。

**田中** そうですね。歴代陛下は、国難といわれる時にはまず石清水八幡宮に勅使を奉じて奉幣をされるのが習わしとなっています。もつとも有名なのは元寇の「弘安の役」で、蒙古が攻めてきた時、龜山上皇がこの石清水の神前で自ら祈禱を捧げられ、その時に白羽の矢が玄界灘のほうに向かつて